



検討の観点	内容の特色
1. 内容の取扱い	教育基本法との関連 ●教育基本法第2条（第1号～第5号）を踏まえ、教材の選定・開発をしています。【3学年/全体】第1号 幅広い知識と教養、真理を求める態度、豊かな情操と道徳心への配慮。[例：1年Lesson 9 [SDGsやリサイクルについての本文]、2年Lesson 7 [クリスマス・カードの起源や慈善活動についての本文]、2年Further Reading [バレンタインデーのプレゼントをめぐる心温まる物語]、3年Project 2 [相手の立場や気持ちに配慮して助言する活動] 等] - 第2号 個人の価値尊重と創造性、自主・自律の精神と職業及び生活との関連、勤労を重んじる態度の育成。[例：1年Project 3 [SDGs達成のために自分ができることを考えてまとめ、表現する活動]、2年Lesson 4 [職場体験についての本文]、3年Lesson 5 [登場人物が将来の夢や生き方について発表する本文]、3年Lesson 6 [働くことの意義を考えるディスカッションの本文] 等] - 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力の尊重、主体的な社会参画。[例：2年Project 1 [課題解決のために自分たちができる取り組みを考えて、表現する活動]、2年Reading 3 [メジャーリーガーとなった聴覚障がいのある野球選手の実話]、3年Project 1 [魅力的な商品やサービスを考えて、表現する活動]、3年Further Reading 2 [NASAで活躍したアフリカ系アメリカ人女性の伝記] 等] - 第4号 生命の尊重と環境の保全への寄与。[例：1年Lesson 8 [北海道・豊頃町のジュエリーアイズと釧路湿原のタンチョウについての本文]、2年Lesson 2 [再生エネルギーについての本文]、2年Reading 1 [ペンギンのあまり知られていない生態についての本文]、3年Lesson 2 [北海道のオオワシ保護活動についての本文]、3年Lesson 3 [宇宙旅行や宇宙ごみについての本文] 等] - 第5号 伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する態度と国際理解への寄与。[例：1年Lesson 5 [海外と日本の学校生活の違いについての本文]、2年Lesson 5 [ハロウィーンについてやお盆との共通点についての本文]、2年Lesson 6 [日本の城やグランド・キャニオンについての本文]、2年Lesson 8 [英語で落語を演じる落語家の体験や英語落語についての本文]、2年Project 3 [日本の文化を紹介する英文作成活動]、3年Review Lesson [京都旅行と和食についての本文]、3年Reading 1 [アフガニスタンやパキスタンで活躍した中村哲医師の伝記] 等] 学習指導要領に示された教科の目標を達成するための配慮 ●コミュニケーション能力の育成を目指し、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと【やり取り】」、「話すこと【発表】」、「書くこと」の5つの領域別に設定された目標をそれぞれ達成できるように内容を選択・配列しています。また、実際の使用に即した場面設定、興味を喚起する話題、他者と関わりながら進めていく活動を豊富に配置し、「コミュニケーションを図る資質・能力を育成」できるように内容を選択・配列しています。 ●資質・能力の3つの柱である 「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を総合的に育成できるよう、英語で意思や情報を伝え合う対話的な活動や協働して問題解決に当たる活動を盛り込み、生徒一人一人の「生きる力」の育成に寄与し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように工夫しています。 自主的・自発的な学習への支援 ●教科書への導入としてWelcome to ONE WORLDを巻頭に設け、1年では「中学校を卒業するまでの目標や、将来なりたい姿を書いてみよう。」の欄に、2・3年では「この1年でチャレンジしたいことを書いてみよう。」の欄に自由に書き込ませることにより、英語学習や英語を通じたコミュニケーションへの期待と、生徒一人一人の学習意欲を喚起する仕組みを設けています。 ●単元の目標をCAN-DO記述文のかたちでLessonの冒頭に示すことにより、当該Lessonの学習が終わった時点でできるようになりたい姿をあらかじめイメージし、それを意識しつつ授業に臨み、最後に自己評価ができるように工夫しています。「Lesson ○をふり返ろう」でも目標を再掲し、「資質・能力」に基づくふり返りの観点を示し、どの程度達成できたか、生徒自身が評価できるようになっています。

	●「英語の書き方のルール」や「辞書の使い方」、「How to Study」、「効果的な英語学習法」ページを設け、自主的な学習をスムーズに行うためのアドバイスを掲載しているほか、さまざまな自己表現活動に役立つ語彙「分野別用語集」を巻末に掲載し、必要に応じて参照できるように構成しています。
2. 内容の程度	小学校外国語科との接続に配慮した内容 ●小学校の外国語活動で行ったコミュニケーション活動について、Springboard 1～6でふり返りができるようにしています。Lesson 1～Lesson 3 Part 1までの早期段階に小学校で学習した表現や文型、文法事項を再び扱うことで、基本的な表現を確実に定着できるように構成し、中学校で学ぶ言語材料を導入する前のふり返りの場として整理しています。 生徒の発達段階に適した内容 ●年間を通して、言語材料・言語活動のそれぞれについて、発達段階に適合した内容を選択し、配列しています。 ●各Lessonの題材内容については、生徒の発達の段階、興味・関心に配慮し、クラス内での自己紹介から、学校や地域、国内、海外へとさまざまな分野について、徐々に視点が広がっていくように構成しています。 言語材料の取り上げ方 ●言語材料は、基本的な「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文、文構造及び文法事項」を丁寧に取り上げ、学習の進捗や言語活動との関連を踏まえて、バランスよく、段階的に配置しています。語、連語及び慣用表現については、自己表現活動に使えるように、中学生にとって身近なものを選定しています。 ●各言語材料はコミュニケーションを支えるためにあるものとして、どのような目的や場面、状況で使われるかを生徒が理解できるように、Sceneとして示しています。 基本文、文法解説、語彙の取り上げ方 ●Lesson各Partには、本文に登場した重要な文構造や文法事項の典型例をKey Sentenceとして掲げ、Lesson末のGrammarページのHow to Useで丁寧な解説とともにまとめて整理しています。その基本文を含む対話例をLet's Useとして掲載し、部分入れ替えして対話練習する機会を設けています。 ●各基本文の定着を図るため、各PartにTool Kitとして入れ替え練習を設け、当該の文法事項を含む比較的容易なリスニング活動Let's Listenも設けています。 ●語彙は、本文中及びTool Kit、Taskページ等に登場した新出語をWords & Phrasesとして掲げ、「発信語」は太字で示されています。小学校既習扱いの重要語については「小学校の発信語」として併記し、定着させられるように工夫しています。 言語活動の取り上げ方 ●「知識及び技能」を活用して「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるための具体的な言語活動となるよう、また生徒自身の興味・関心や経験等を発信できるように、Think & Try!、Read & Try!、Task、Project等の各コーナーに言語活動を適切に配列しています。 生徒の興味・関心に即した題材内容 ●主体的な学びを促進し、対話的な学びへと導くため、生徒の興味・関心に合った題材をLesson本文及び活動やProjectの活動の題材として設定しています。 他教科、道徳等との関連 ●1年Lesson 1 Grammarで日本語の文との語順の対比、「効果的な英語学習法」ではカタカナ語と英語の違いに注目するなど、国語科との関連を図っています。 ●他教科とのつながりがある題材を多くの単元で取り上げています。 例. 1年Lesson 7（社会）、Lesson 8（社会、理科）、Lesson 9（社会、道徳）、2年Lesson 1（道徳）、Lesson 2（社会、理科）、Lesson 3（社会、美術、家庭）、3年Lesson 2（理科）、Lesson 5（国語、道徳）、Lesson 6（国語、社会、家庭）、Tips for Listening 3（防災）等。 高等学校との接続 ●新出文法事項は3年Lesson 5までに扱い終える仕組みになっており、高校入試までに定着を図る期間を十分に確保することができます。 ●Tips for Listening / Reading / Speaking / Writingで、さまざまなコツを習得していくことで、高校入試や検定試験、高校からの英語学習にも役立つ基礎を身に付けることができます。 ●Reading及びFurther Readingの読み物の語数は、段階的に増加し、約200語から約600語までの英文を読む訓練が積めるように構成しています。

3. 組織・配列・正確性	デジタルコンテンツ、ICT活用	●紙面上の二次元コードを通じてアクセスするウェブサイト「まなびリンク」を設け、音声、動画、ワークシートなどの良質なデジタルコンテンツを教室での協働学習・個別学習だけでなく、家庭学習でも活用できるようにしました。二次元コードを利用できない場合は、p.1に掲載しているURLからアクセスすることができます。 ●学習者用デジタル教科書において、教科書本文のネイティブ音声（再生速度の調整可）を、文字をハイライト表示しながら聞くことができるようにするなど、学習への意欲を高め、学びを活性化し、確かなものにするように配慮しています。 ●学習者用デジタル教科書では、必要な部分を大きくして見たり、音声や動画などに簡単にアクセスしたりすることができるため、学習の効率化・充実化を図ることができます。 ●先生方が必要に応じてご利用できるコンテンツ「まなびリンク+」により、クラスの学習状況や実態に応じて、音声、動画、ワークシートなどのコンテンツを適切なタイミングで生徒に提示することができるように配慮しています。
	内容の組織・配列	●Lessonの冒頭に「単元の目標」を示し、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にし、Lesson末のTaskで単元の目標に関連したやり取りや作文、発表をする構成にしています。学習の見通しを立て、コミュニケーションの目的を意識しつつ、Lesson内の各活動を進めていけるように工夫しています。 ●Lessonは、扉ページで話題・題材への興味・関心を誘い、Part 1, 2（短めの本文と「聞く」「話す／書く」活動を通して、特に重要な基本文の理解と定着を図る）と、Part 3（長めの本文を「読む」活動と「聞く」活動を通して、より深い学習と発信力の伸長を図る）、Task（本文の内容理解確認の活動と、技能統合的な活動）、Grammar（文構造、文法事項のまとめ）で構成しています。 ●Lesson間には5領域に関わるさまざまなTipsやUseful Expressions等が配置されており、統合的な活動を年3回行うProjectも併せて、5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から実践的な活動まで行うことができるように構成しています。 ●帯活動などで活用することで既習言語材料の定着を図るActivities Plusを設け、既習の言語材料を使って表現することができるQ&Aを10題ずつ配置し、ペア・ワークなどを通して「話すこと【やり取り】」を取り入れる機会を豊富に設けています。
	言語材料の組織・配列	●文構造・文法は、関連のあるものを同じLessonや連続したLessonで扱うなど、バランスよく配列しています。小学校で学んだ事項は1年Lesson 3までに触れる機会を設け、小学校での学習を定着させたいうえで、中学校での新出事項にスムーズに移行していけるように配列しています。 ●音声事項については、本文脚注に整理され、語と語の連結による音変化、文中の強勢・イントネーションなどについて適切に取り上げています。
	個別最適な学び・協働的な学び	●「まなびリンク」には、当該レッスンで扱った文法事項を含むやり取りを練習するGrammarページの「Let's Useやり取り見本動画」が用意されているため、自宅学習でも授業中の個別練習およびペア・ワークでも活用することができ、ロールプレイの練習に続いて文の一部を入れ替えて練習するなどして、学んだ内容の定着を図れるしくみになっています。 ●Projectの発表活動などでは、グループで協働して取り組んだり、改善を図ったりすることができますように設定されています。 例. 1年Project 3、2年Project 1, 3、3年Project 1, 3
	付録、補充資料	●「語形変化のまとめ」、「形容詞・副詞比較変化表」（2年・3年）、「不規則動詞変化表」、「重要構文復習リスト」、「Think & Try! 活動例」、「分野別用語集」（1年・2年）、「Word List」、「つづりと発音」、「Can-Do 自己チェックリスト」を掲載しています。
4. 分量	各内容の分量の配分	●各学年とも7～9つのLessonと、新出の文構造・文法事項が登場しないReading, Further Readingから成っています。各コーナーの活動も精選されており、適切な分量を配分しています。
	全体の分量、指導時数	●指導時数の目安は、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の時間を考慮したうえで、1年109時間、2年109時間、3年106時間となっており、年間指導時数内で余裕をもって指導できます。

	扱う語数	●語彙は、小中学校の教科書で頻出のものやCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で既習扱いとみなした語を600語設定し、それに加えて中学校の新出語約1,700語を加えた約2,300語を扱っています。 ●上記約2,300語のうち、小学校既習語から435語、中学校新出語から465語の合計900語を「発信語」と設定し、側注Words & Phrasesや巻末Word Listでは太字で示しています。 ●中学校の新出語は、本文だけでなく、本文以外の部分（Tool Kit、Task、Useful Expressionsなど）でも扱うことで分散させ、学習時の負担を軽減しています。 <table><tr><th>小学校の既習語</th><th colspan="3">中学校の新出語</th></tr><tr><td rowspan="2">600語</td><td rowspan="2">約1,700語 (1,688語)</td><td>本文 1,459語</td><td>1年552語</td></tr><tr><td>本文以外229語</td><td>2年635語</td></tr><tr><td>そのうち発信語435語</td><td colspan="2">そのうち発信語465語</td><td>3年501語</td></tr></table>	小学校の既習語	中学校の新出語			600語	約1,700語 (1,688語)	本文 1,459語	1年552語	本文以外229語	2年635語	そのうち発信語435語	そのうち発信語465語		3年501語
小学校の既習語	中学校の新出語															
600語	約1,700語 (1,688語)	本文 1,459語	1年552語													
		本文以外229語	2年635語													
そのうち発信語435語	そのうち発信語465語		3年501語													
5. コミュニケーション	言語の使用場面・働き	●各Lessonなどにおいて、Goalや指示文で「言語の働き」と「言語の使用場面」を明確に示しており、また多様な働きと場面を扱っています。活動を通して、実際のコミュニケーションにおける言語材料の意味や適切な使用場面が体験的に理解でき、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成に資するように配慮しています。														
	4技能・5領域のバランスや統合	●裏見返しの「Can-Do 自己チェックリスト」において、5つの領域での1年間の学習目標を明確に示し、年度末時点での到達度を自己評価することができるように整理しています。														
	ペア・ワーク、グループ・ワーク	●Activities Plusでは、既習の言語材料を用いてさまざまな話題における応答例を示しているほか、GrammarページのLet's Useは、学んだ文構造や文法事項を含む対話文等を自由に入れ替えて展開できる仕組みで、ペア・ワークによる口頭練習に継続的に取り組めるよう工夫しています。 ●Projectには、グループ・ワークで効果的に取り組むことができる活動を多く取り入れています。														
6. 造本・印刷／取組み・教育配慮	挿絵・図版・写真等	●挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いものや、作品世界を活かし、生徒の想像力を高めるイメージ豊かなものを掲載しています。また、学習活動の手順や留意点をわかりやすく示したもの、学習上必要なものを適所に取り上げています。														
	活字の書体、4線等の扱い	●手書き文字に近く判読しやすいフォントを開発し、Springboard、1年Lesson 3までの本文、Task、Tipsで扱っています。また、全学年のアイコン等は判読しやすいフォントで示されているので、安心して各ページの学習に取り組むことができます。														
	造本・印刷	●製本は網代綴じで、開本しやすく、堅牢です。美しいカラー印刷で、文字は鮮明です。														
	SDGs への取り組み	●現代社会の問題を自らの課題と考えられる生徒を育てるように、SDGsに関わる題材を多く取り入れ、専門家による校閲を受け、英語を学びながらSDGsに通じる見方・考え方を養えるようにしています。														
	ユニバーサル・デザイン、人権教育・特別支援教育への配慮	●特別支援についての専門家による校閲を受け、紙面上のさまざまなアイコン、イラスト、図表などの判読・理解において、色覚特性による影響が生じないように配慮しています。すべての学習者にとって見やすくわかりやすい配色が施されており、CUDO（NPO法人カラーユニバーサル機構）による認証マークを取得しています。 ●人権的配慮についても専門家による校閲を受け、多様な視点から配慮しています。														